

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

|        |                                  |       |         |
|--------|----------------------------------|-------|---------|
| 氏名     | D.U                              | 学部・学科 | 国際教養学部  |
| 学年     | 2年                               | 派遣国   | アメリカ合衆国 |
| 派遣大学   | ニューヨーク州立大学ストーブルック校               |       |         |
| プログラム名 | Global Certificate Program (GCP) |       |         |
| 期間     | 2023年7月10日～2023年7月28日            |       |         |

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は3週間あり、1週目はアメリカにおける青少年のメンタルヘルスについて、2週目はアメリカにおける家族観の変容、3週目はリーダーシップがテーマであった。授業自体は火～木まであり、1日に4時間ほどであった。課題ではある程度長い文章が渡されることが多く、要点の整理や、自身の意見を書くことが求められた。これを基にした、クラスメイトとのディスカッションが授業の最初にあった。週に1回ほど、プレゼンテーションが行われた。

また、2回ほどスペシャルレクチャーがあり、メンタルヘルスケアの講師や、アメリカジャーナリズムの講師による講演が行われた。通常授業で学んだことと関連した部分もあり、より発展的なことを学ぶことが出来た。

授業におけるディスカッションは、授業の最初だけでなく、頻繁に行われていた。そこでは、失敗を気にせず、互いに意見を多く出し活発に交流することが求められた。また、TED Talkなどの動画が授業で使われることも多かった。こうした動画には日本語の字幕がないこともあり、課題において動画がテーマとなった時にはやや苦戦した。

特に印象に残った授業は、アメリカにおける家族観の変容であった。同性カップルなど、より多様な形での家族の例が多く示され、多様性の理解が昨今の課題となっているアメリカらしいテーマだと思った。また、「結婚したカップルは子どもを持つべきかどうか」という疑問についてのディスカッションにおいても、韓国人のクラスメイトと共に、アメリカや日本、韓国の状況について話し合い、共通点や相違点について学ぶことが出来た。また他の授業においても、企業の面接官になりきり、面接を自分たちでするといったことも行った。こうした主体性を高めるワークが多く、これまでとは異なる新しい活動が出来た。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

青少年のメンタルヘルスの現状について、精神疾患を患う青少年が年々増加するなど元々悪かった状況が新型コロナの流行によってさらに悪化したことを学んだり、ストレスを減らす方法を自分で確立させる必要性を感じた。家族観の変容においては、現代においては同性カップルなど多くの形が生まれているが、子どもを含めた個人の幸せを 1 番に優先した仕組みであることが重要なのだと考えた。リーダーシップにおいては、他者との協調を重視し、思いやりを持つことが求められると感じた。また、スペシャルレクチャーでは米国大統領選挙におけるメディアの動向も学び、日頃から世界のニュースに注目する必要性も感じた。

また、授業においては、どのような英語力を習得する必要があるのかを確認することが出来た。英語力については、リスニングやスピーキングが特に難しいと感じた。長時間聞き続けることや、ネイティブの話し方に順応して聞き取ることが難しく、苦戦した。そのため、こうした状況に対応出来るより実践的な英語力を身につける必要があると感じた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、クラスで自分以外に日本人がおらず、英語を話すこともそれほど得意でなかったため、コミュニケーションに対して不安を抱いていた。しかし、先生もクラスメイトも話しかけてくる人が多くいたため、積極的に話そうとする姿勢が必要だと考えた。

また、「日本人が自分以外にクラスにいない」といった、不利に思える状況を「自分を強くアピールすることが出来る」と前向きに捉えるポジティブな姿勢も重要だと思った。

また、アメリカだけでなく、より多くの国に対して興味を持った。クラスメイトと会話する上では、お互いの国の言葉やアニメなどが話題になることが多かったが、自分が知らなかった日本のアニメや曲を知ることもあり、新しい視点が生まれた。そうして仲良くなった友達が多くおり、近いうちに友達の家である韓国に行ってみたいと思った。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

以前から TOEIC などのテストは一定の成果を出していたが、まだまだ英語力が足りず、特にスピーキングやリスニングに力を入れ、より実践的な英語力を身につけていきたい。具体的には、普段から英語のニュースを聴いたり、英会話に挑戦していくことが挙げられる。また、より積極的に他人と話す積極性や、会話を通して相手の考えを理解することも重要だと考えた。こうした姿勢は、今後の大学での研究においても役立つだろう。また、今回得られた経験を、自分が参加している多文化共生に関するボランティアにおいて活かしていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

|        |                                  |       |         |
|--------|----------------------------------|-------|---------|
| 氏名     | H.S                              | 学部・学科 | 国際商学部   |
| 学年     | 2年                               | 派遣国   | アメリカ合衆国 |
| 派遣大学   | ニューヨーク州立大学ストニーブルック校              |       |         |
| プログラム名 | Global Certificate Program (GCP) |       |         |
| 期間     | 2023年 7月 10日～ 2023年 7月 28日       |       |         |

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は、週に3回火曜日から木曜日の午前10時から午後3時まで行われた。基本的な流れとしては、週ごとにテーマが設定されておりテーマに沿った記事が課題として与えられ、それらを基に授業が進行された。第一週目はメンタルヘルス、第二週目は近年の結婚観や家族観の変化、第三週目はリーダーシップがテーマであった。また、二回ほどスペシャルレクチャーが開催され、ストニーブルック校の取締役副社長兼学長である Carl Lejuez 氏が心理学とメンタルヘルスについて、マリー・コルビン国際報道センター所長兼海外報道研究所客員教授である Sarah Baxter 氏を講師として迎え、ジャーナリズムについての講演を聴講した。メンタルヘルスケアに関しては、主に Lejuez 氏が実際に経験した患者とのエピソードや自身の研究結果という内容だった。ジャーナリズムに関する講義は、前大統領のドナルド・トランプ氏の政治を巡る出来事やバラク・オバマ氏との比較、当時のアメリカ国民の反応などについてであった。

授業内ではテーマに対するディスカッションを行い、チームに分かれてのプレゼンテーションやディベートも行った。特に、ディスカッションの時間が頻繁に設けられ、また失敗を気にしないというマインドを大切にしつつ互いに意見を活発に交流することが重視された。毎回課される課題の内容は、現代的な内容のものが多く読み物として興味深い部分が多いと感じた。Facebook 創始者である Mark Zuckerberg 氏と TESLA や Space X の CEO であり Twitter の買収にも成功した Elon Musk 氏の対立構造という近年最もホットなトピックと言える話題や 1956 年からアメリカ国民に愛され続けるコラム Dear Abby への実際の投稿など、活発に意見を交わし合え、考えを広げられるようなトピックであった。

中でも印象に残った授業は、Taylor Swift が心理学的慣習を揺るがすという内容の授業である。ある精神科医による Taylor Swift が人々の精神に与える影響力の研究についての The New York Times の記事を基に、コンサートが行われた日の実際のニュースなどを視聴し、メンタルヘルスの観点から彼女の人気の理由を学んだ。この授業で、一人ひとりが心に響いた歌詞を即興でプレゼンテーションする場が設けられ、それぞれが抱える悩みに実際 Taylor の言葉がどう響いているのかを実感することが出来たり、これまで Taylor の楽曲を来たことがなかった人にも変化が現れたりしたのが特に面白かったと思う。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

アメリカの実際の姿について、メンタルヘルスの問題や孤独の問題が深刻化していることを知ることが出来た。未成年の子供たちのメンタルヘルスの問題は、コロナ禍以降も悪化しており、社会的孤立や学業不振を感じている。また、世話をしてくれる人の喪失なども現れており、20 万人以上の子供が新型コロナウイルスにより両親や保護者となる人を失っているという調査もあるほど深刻である。また高齢者の孤独問題も深刻であり、仕事を離れてから社会から切り離されていると感じ、生きることに疲れる人が少なくない。

他にも、若者の多くが今も結婚の重要性を感じ望んでいるにも関わらず若者の未婚率の高さ、恋愛離れが起こっていることを学んだ。また、それらの原因の一つに人種差別、特に黒人に対する逮捕率の高さも関連しているという現状がある。さらに近年の個人の収入の減少も影響している。しかし一方で、独身でいることにもメリットがあり、長年の独身でいる人の感じる孤独はそうでない人々と比べて低いという結果もある。

更に、ジェンダーダイバーシティについても、更なる理解が必要だと学んだ。現在アメリカでは、同性婚が認められており寛容な世の中になってはいるが、アセクシャルやアロマンティックなどの人々への理解は足りていない。メディアの発信と実際の姿が異なっているという問題もある。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受けたことで、仕事やキャリアに対する価値観が大きく変化したと思う。

ニューヨークで働く様々な人々の物語が紹介されるアニメーションをみてディスカッションを行った授業があり、なかでも特に、街のごみ回収員として働いていた方のお話は、衝撃を受けたことの一つだった。ニューヨークシティを実際に訪れ、日本とは違う街のごみの多さや環境の悪さを目にしていたため、彼らが健康であればごみ回収の仕事をずっと続けたいと願うほど誇りに思っている事実が驚きであった。彼らは移民であるが、ごみ回収の仕事だけでなく街の人々への手助けや貢献を当たり前のように行っていた。その結果街全体がただの清掃員というだけでなく、ニューヨークという街の一部に不可欠な存在として彼らを受け入れ、最終出勤日には街の人々が集まり別れや惜しみの言葉をかけてくれたという。こういった感覚が東京にあるとは想像しがたいと思う。どんな仕事であっても同等に価値があるということ、また働くことの意味には単に与えられた仕事をこなすのではなく、コミュニティの一部となってつながるという意味も含まれていること、無意識のうちに仕事に対しての偏見が自分の中にあったということに気づかされた。

このように、日本では感じられなかった仕事への価値観の違いや、他にも結婚観や家族観の変化を学んだことが自分のキャリアへの見方に影響を与えた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

約3週間という短い期間であったが、その分毎日時間を無駄にしないようにと沢山の貴重な経験をし、交流の輪を広げていくことができた。この期間で身につけた行動力と築きあげた交流関係は今後も変わらず保っていききたい。学業に関して、スペシャルレクチャーなどの専門的な話になると知らない単語が増え、英語への理解が追い付かなくなったのが今の実力だった。そのため、今後は専門的な内容についてのリスニングスキルを重点的に伸ばすことに注力し、同時にボキャブラリーも増やしていくことを目標としていこうと思う。特に意味を知らない単語がある場合は、まず英英辞典で調べる癖をつけ、言い換え表現の幅を広げていこうと思った。また、自らの考えに自信がないとしても失敗を恐れず、自分なりに考えを交流していく姿勢は日本でも心がけていきたい。